

国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」は、16日バレンシアにおける総会で、地球温暖化についての科学的知識を広くまとめた「**統合報告書**」を承認した。

IPCC統合報告書のポイント

- 1.20世紀半ば以来の地球の平均気温の上昇は、**人間活動を原因とする温室効果ガスの増加**でもたらされた可能性がかなり高い。
- 2.世界の平均気温は21世紀末には1980～99年の平均と比べて**1.8度から4度上昇**すると予測。海面上昇は**最大59センチメートル**。
- 3.気候変動で**極端に暑い日になる回数**が増え、**風の吹き方や雨の強さ、降りやすい地域**も変わる。
- 4.人間活動は、このままでは**急激な海面上昇や生物種の絶滅**など、後戻りできない大規模な変化を起こす可能性がある。
- 5.今後20～30年の温室効果ガス排出の削減努力と削減への投資で、長期的な危険性をどれだけ低減できるかが決まる。
- 6.大気中の温室効果ガス濃度の安定化は、今ある技術と、これから数十年間に商業化が見込める技術を組み合わせることで達成できる。

統合報告書とは、IPCCの三つの作業部会、すなわち、

- ①温暖化の自然科学的根拠
 - ②温暖化の影響
 - ③温暖化の緩和策
- の最新の研究成果を元にほぼ5年ごとにまとめる評価報告書

12月にインドネシア・バリ島で開かれるCOP13(国連気候変動枠組み条約締約国会議)でスタートする「**ポスト京都**」の枠組み論議の前提となる。

ポイント

- 1.「ポスト京都」で大きな焦点になるのは温室効果ガスの排出量の削減目標である。この前提となる地表の平均気温の上昇の抑制目標については、「1.5度～2.5度を超えると生物多様性に悪影響を生じ、サンゴは種の絶滅や被害のリスクにさらされる」などとし、1980～90年の平均に比べ **2度前後をひとつの境界線**として示した。
- 2.削減努力だけでなく、温暖化への**適応策の重要性**が強調されている。

適応策の例

- 水： 雨水利用の拡大、貯水や節水技術の向上
- 農業： 作付け時期や品種の調整、植林による土壌保護
- インフラ： 居住地の移動、高潮対策の堤防作り
- 健康： 暑さ対策の行動計画、安全な水の確保や衛生状態の向上
- 観光： スキー場を高所や氷河に移動、観光資源の多様化
- 運輸： 道路や鉄道網の再配置

効果的な削減技術の例

- 原子力発電
- 再生可能エネルギー
- CO2の地下貯留
- ハイブリッド車
- バイオ燃料
- 省エネルギー技術

経済的対処法

- 排出量取引**や**炭素税**による**炭素の価格化**が有効
- 「価格をつけることで大きな削減が可能となる」
- 「市場メカニズムの範囲を拡大すればコスト削減や環境効果に役立つ」としている。